

第1回岩手県庁舎再整備懇話会 会議録

1 日時

令和7年6月23日(月) 15時00分～16時30分

2 場所

岩手県庁 12階 特別会議室

3 出席者

【構成員(五十音順)】

青笹健 岩手県立大学盛岡短期大学部 教授
市島宗典 白鷗大学法学部 教授
小野田泰明 東北大学大学院工学研究科
工藤直樹 岩手県商工会議所連合会 専務理事
小井田伸雄 岩手県立大学総合政策学部 教授
高橋進 岩手県社会福祉協議会 専務理事
南正昭 岩手大学理工学部 教授
山本康友 大阪公立大学 客員教授

【欠席の構成員】

田村圭子 新潟大学危機管理本部危機管理センター 教授

【県側出席者】

千葉 企画理事
岩間 総務部管財課総括課長
二本松 総務部管財課特命課長
島越 総務部管財課主任
上平 総務部管財課主任

4 議事の内容

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 議事
 - ① 会長の互選について
 - ② 県庁舎再整備に係る検討の経緯
 - ③ 今後の進め方

【質疑】

南会長

質問があれば発言いただきたい。

小井田構成員

資料２の３ページについて、敷地に限りがある中で議場や駐車場を配置する必要があると思われるが、こういった配置が考えられるのか教えてほしい。

岩間管財課総括課長

ご指摘いただいた問題は、二つ論点があると認識している。

一つ目は、昨年度、在り方を決めていく際、庁舎規模について、ある程度将来的な職員数をバックキャストで想定した場合の必要面積や、現状不足している面積の整理はしているが、必要な機能に対してどのぐらいの面積が必要になるかという積み上げまではできていない。

どのぐらいの庁舎面積が必要になってくるのか、そこで建築面積がどのぐらい必要になってくるのかというところで、配置は大幅に変わってくる可能性がある。

駐車場については、現状 139 台しかとることができていない中で、附置義務上は 180 台必要となっており、敷地内で確保できることが望ましいが、今現在附置義務台数が不足している状況や、盛岡市が内丸プランを検討している中、こういった在り方があるのかこれから検討していきたい。

機械式の駐車場も選択肢に入ってくると考えられるが、まずは必要な建築面積等を踏まえた上で検討していきたい。

山本構成員

資料２の７ページ、知事局棟が倒壊する危険性が低いとされているが、非構造部材や設備がかなり損傷を受けるとなると、被災時には建物を利用できないため、早期の対応が必要となる。

また、ハザードマップを全国的に見直しをかけている。盛岡市で見直し等あれば、影響する可能性がある。

同様に、今年の４月に省エネ基準の全面的な見直しがあり、建替えや大規模改修において対応しないと計画通知等が通らないことを念頭に考える必要がある。

岩間管財課総括課長

今現在、議会棟の跡地に新庁舎を整備し、既存の知事局棟を改修する一部建替

え案を軸に検討しているが、いわゆるレトロフィット等の耐震化と既存不適格の解消という点について、改修でどこまでできるのかという知見を、我々もはっきりとした形で持ち合わせていない。

省エネ改修についても、既存の知事局棟の外皮性能どこまで向上させることができるか、先生方の知見をいただきながら、技術的な検討を深めたい。

今年度の検討は、一部建替えが軸ではあるが、改修の場合にどこまでできるか、どういう手法があるかという点について、もう少し検討を深めたい。

青笹構成員

建築設備に関しても様々な指摘がある中、一部建替えの場合、新庁舎に機能を移せば解決する問題と、改修する知事局棟で対応しなければならないものがある。

BCP（非常時）の考え方も、県全体の災害に対して守る必要がある機能と、水害のように県庁舎そのものへの災害に対して守るべきもの等、守るレベルも様々あるので、優先順位をつけて整理し、議論の材料を用意していただくことも有効と考える。

岩間管財課総括課長

去年の 8 月に、盛岡の中心部でかなり強い雨が降った。県庁はハザードマップ上の境界にあるが、知事局棟の地下にある設備のあり方というのは、検討していかなければならないと考えている。

例えば、新たに整備する庁舎の中層階とか高層階に設備機器を設けるとなると、当然その床面積も大きく動く。例えばそこから知事局棟へ配管する場合も、かなり費用がかかり、工事が大変だという話も聞いている。一方、防災拠点として機能継続の必要があるため、エネルギー供給等設備機器の在り方について、床面積も含めて今回検討していきたい。

市島構成員

資料 1 の 14 ページの説明の際に、知事から県議会に検討が依頼されていると伺ったが、資料 3 に、県議会との関係について記載がないが、懇話会の中で県議会からの意見をどのように扱うのか、今後の進め方や方針があれば教えていただきたい。

岩間管財課総括課長

現在、県議会で検討いただいている意見の取りまとめ中であり、取りまとめたものについては、第 2 回懇話会において共有させていただき、それに対しどう

いった対応方針が考えられるのかを議論させていただきたい。

小野田構成員

設計の準備段階であるこの懇話会に、どこまでの意見や成果を求められているのか分からない。

実務としてまずは、基本的な物量を抑える必要がある。例えば、将来的に職員が何人になるのか、どれくらい DX を進め書類を減らすか、議会の在り方をどうしていくか等、それぞれの庁舎にどれくらいの面積が必要なのか、ベンチマークを整え必要面積を整理していく。

懇話会は、構成員の先生方がそれぞれの専門性の中で、どうしても大きな方向性を示す役割になる。

その判断材料となる諸表を整理する役割を誰が行うのか、どこまで深掘できているのか分からない。

今そういう段階ではなく、大きな方針を定める段階で良いというのであれば、それでも良いが、一旦、数値を仮決めして、具体的なデータをベースに考えていくことが重要であり、まずは諸表を見たい。

岩間管財課総括課長

第1回、第2回の懇話会は、抽象度の高い議題となっている。

今年度は、令和9年度の設計者の選定に向けた作業として、必要な機能を見込んだ上で、どれくらいの面積や財政負担が必要か、このような課題が考えられるのではないかと、在り方報告書の内容を詰めるようなものを「基本構想」という形で整理したいと考えている。

小野田構成員

設計者のプロポーザルはいつになるのか。

岩間管財課総括課長

設計のプロポーザルは再来年だが、来年度に基本計画を練る中で、発注方式をどうするのかといった検討を予定している。

小野田構成員

DX化はどの程度進んでいるか、どの程度まで進めるのか。

来年度に調査を実施すれば良いかと思うが、他の自治体の庁舎整備の事例でも部署ごとにどれくらい面積を使っているか等、詳細な調査が必要かと思われる。この段階では、比較的抽象度の高い、庁舎はこうあるべきだといった大所高

所の話をすればよいのか。

岩間管財課総括課長

ご指摘の通り、DX によって必要面積が大きく変わってくるということを我々も想定している。本県でも DX が進んでおり、どのくらいの書類の削減量になっているかというデータが整理できているものもあるので、第 3 回では DX をどのあたりまで進めるのかという点も議論させていただきたいと考えている。

また、仕組みとしては動いているが、運用としてどの程度の成果が上がっているかという点については、少し状況が異なっているので、そのあたりも含め議論できればと思っている。

執務スペース、倉庫スペース、書庫スペース、会議室といったところを、どういった形で確保していけば良いのかという点も、前回執務環境調査を行ったときに「かなり狭い」という結果が出ていた。このくらい削減しなければならないという削減目標の数字もあるので、それと比べてどうなのかといったところも、共有したいと考えている。

南会長

データも昨年度から整ってきているが、懇話会は全体としての議論の枠組みや、考えるべき項目が適切かを検討してきた段階である。

さらに実際の庁舎整備のイメージを作っていこうとすると、時間はかかるものの、詳細な分析データを出していく必要はある。

千葉企画理事

職員数については昨年度も議論いただいたが、人口減少下において、職員のなり手がだいぶ少なくなっている中で、行政サービスをきちんと維持していかなければならない観点から、本庁においては、組織の大きくくり化、出先機関については、広域化や複合化という観点で現在検討している。

DX について、大きい課題として財務会計システムがあるが、今後どうするか、委託事業にて検討を進めている。進捗状況については適宜資料提供させていただきたい。

小野田構成員

この場で議論するにしても、もう少し踏み込んだ資料がなければ、議論は非常に難しい。来年度なのかもしれないが、もう少し詳細なものを用意していただきたい。他自治体では、設計プロポの 2 年程度前に、各課の人数や文書量、DX や

ペーパーレス、フリーアドレスの部署による適不適など、詳細な情報を踏まえ、どこまで面積を圧縮すべきか等チェックをしていた。

それを実行している実務部隊がいるのであれば、我々としては大きな議論をすればいいだろうし、懇話会に具体的な方向性求めるのであれば、もう少し具体的な資料を出していただきたい。他の同様の事例の場合、設計プロポの2年程度前時点には、もう少し解像度が高いと思うがどう考えるか。

岩間管財課総括課長

ご指摘の調査業務やパイロットオフィスの検討は令和8年度に予定している。令和7年度にやっておくべき調査ではないかというご指摘と思うが、予算の制約があり今からというのは難しい。

令和2年度に調査を行ったが、年数が経過しているので、アップデートしたいと考えている。今年度内にというのは難しいかもしれないが、粒度が荒いというご指摘は受け止めさせていただき、スケジュールを検討させていただく。

南会長

昨年度から、県庁舎の再整備をどういう形で進めていくかという大枠について皆さんで共有しながら議論してきたが、一部建替えにしようという状況には必ずしも至っていないと見受けられる。

このような場を通して、皆さんで、いかにこの県庁舎の再整備を進めていくかを検討する必要がある。また、県にとって大事なものを作っていくためには、足場づくり、土台作りが今はまず大事だと考えている。是非、前向きな方向で皆さんには議論いただきたい。

高橋構成員

資料1に記載のある、県庁舎整備で目指すものの4点については、所与のものとして考えてよいか。

岩間管財課総括課長

これらの4点は、県庁舎整備で目指すものとして昨年度議論いただいたものであるため、これらを踏まえた上で議論いただきたい。

高橋構成員

DXの推進や職員数の将来推計といったものは、県の中での議論を経た上で、この場に示されるものと考えてよいか。

千葉企画理事

お話しいただいた通り、DX や職員数といった点については、別途、改めてこちらから情報提供をさせていただく。

南会長

考えるべきことの幅は広いうえ、時代変化は20年、40年、50年先となると読み切れない。情報化や人口減少の問題など、予測しきれない中で、データを見ながらどう決断していくのか探っていく作業となる。

データを揃えて丁寧な分析をすることを念頭に置きながら、向かうべき方向を議論していくことになろうと思う。

(4) その他

(5) 閉 会